厚木市立中央図書館

この本知ってる？ 中･高生版 R３

ここに紹介した本は、図書館にあります。読みたい本がみつかったら、中央図書館２階ヤングアダルトコーナー、依知北・睦合北・小鮎・荻野・森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館図書室に来てください。

本は、ひとり 10 冊、２週間借りられます。読みたい本が貸出中のときは、インターネットや電話、窓口で予約してください。上記以外の公民館の事務室で予約図書を受け取ることもできます。

家の近くの公民館をぜひ利用してね！

◆読んでみよう◆

『朔と新』　いとう　みく／著　講談社

一昨年の大晦日、朔と新の兄弟は、父の故郷へ帰る高速バスに乗っていて、事故にあった。兄・朔は、視力を失い、弟・新は、自分がバスに乗る原因を作ったと思い、以来、走ることをやめていた。
ある日、朔は、新に、ブラインドマラソンの「伴走者になってもらいたいんだ」と伝える。新は、複雑な気持ちで、１本のロープをにぎり、朔と走り始めた。

『ドリーム・プロジェクト』濱野　京子／著　PHP 研究所

中学２年生の拓真は、祖父がかつて住んでいた家を修理し、祖父たち老人たちの過ごす場所にしたいと思いつく。「クラウドファンディング」というインターネットを使って多数の人から資金を集める方法があると聞き、賛同する同級生でチームを結成。古民家を再生し地区の憩いの場所とする「夕日の家プロジェクト」をスタートさせる。家族、地域の人たちの支援を得ながら、目標金額 160 万円達成を目指す。

『ぼくたちのＰ（パラダイス）』

にしがき　ようこ／作　小学館

人見知りでプライドが強い雄太は、四度目の転校の中学校で友達がいない。夏休みにおじさんの別荘に行くことになった雄太は、鳥のさえずる高原でゲーム三昧と喜んだ。ところが、別荘ではなく山小屋で、まっていたのは、山の保全活動をしている大学生と力仕事だった。山で過ごす一週間を、雄太は乗り越えられるのか？

『ぼくがいちばんききたいことは』

アヴィ／著　青山　南／訳　ほるぷ出版

離婚したパパのところへ、月に１回、週末に泊まりに行ける。デイモンは、父の家のドアを開けた。家には、見慣れないものが増えている。さらには、見知らぬ女の人がいた（「家に帰る」）。10 代の少年と家族にまつわる、やりきれない、切ないできごとを描いた７つの短編です。

『ボトルクリーク絶体絶命』

ワット・キー／著　橋本　恵／訳　あすなろ書房

１３歳の少年コートは、リバーガイドの父とハウスボートで暮らしている。父不在のある日、大型ハリケーンが襲来、幼なじみのライザ、フランシーの姉妹とハウスボートごと流されてしまう。何とか脱出し、氾濫した水から逃れるため、ボトルクリーク遺跡の高い土塁を目指すが、そこでは避難してきた野生動物たちの生き残りをかけた壮絶な戦いが始まっていた。

『キャプテンマークと銭湯と』

佐藤　いつ子／作　佐藤　真紀子／絵　KADOKAWA

キャプテンマークとは、サッカーで、キャプテンがつける腕章だ。周斗は、中一からずっとキャプテンだった。ところが、強豪チームから移ってきた大地に、キャプテンマークを渡すことになった。その日の練習帰り、いつもと違う道を歩いていると、小さいころに来ていた銭湯を見つけた。

『天を掃け』　**黒川　裕子／著　中村　ユミ／絵　講談社**

駿馬は、中学二年生。アキレス腱を負傷し、いまは陸上競技から離れている。ある夜、学校で「宇宙人」と呼ばれている、すばると知り合った。すばるは、毎夜、山頂で天体観測をしている。小惑星を探しているのだ。天体観測の知識などまるでなかった駿馬は、すばるにつられるように、天体望遠鏡をのぞくようになった。

『あたしが乗った列車は進む』

ポール・モーシャー／作　代田　亜香子／訳　鈴木出版

ママの死後、いっしょに暮らしていた祖母も亡くなったため、12 歳の女の子「あたし」は、シカゴの大おじさんの家に行くことになりました。ロサンゼルス経由で長距離列車に乗り、３日間。その列車旅で色んな人と出会い、自分の生い立ちやこれからの事を見つめ直した「あたし」は、前に向かって進もうと考え始めます。

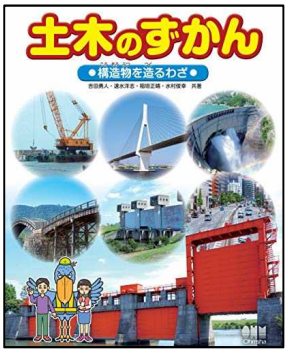
◆調べてみよう・考えてみよう◆

『絵でわかる建物の歴史』

エドゥアルド・アルタルリバ、ベルタ・バルディ・イ・ミラ／著
伊藤　史織／訳　中島　智章／監修　エクスナレッジ

古今東西、世界中の有名建築と建築家の作品を、カラフルなイラストで紹介しています。イラストが豊富なのでとっつきやすく、これ一冊読めば、一般教養としての建築知識が、あらかた網羅できる内容量です。別の本で建築写真を探して、この本の建築イラストと見比べてみるのも面白いですよ。

『土木のずかん　構造物を造るわざ』



吉田　勇人・速水　洋志・稲垣　正晴・水村　俊幸／共著　オーム社

土木技術は、生活に欠かせない道路、橋、ダム、河川などの構造物をつくるときに活かされています。何気なく目にしているマンホールのふたの下には、下水道や防火水槽があります。道路のないところへ橋をかけるときにも土木技術が必要です。神奈川県や各地の構造物の写真も多く紹介されているので、みなさんも土木を身近に感じてください。

『友だち幻想　人と人の＜つながり＞を考える』

菅野　仁／著　筑摩書房

あなたは「友だち」のことで悩んではいませんか？　この本は、友だちについての考え方をわかりやすく整理してくれます。「自分というものをすべて受け入れてくれる友だち」が、この世のどこかにいるというのは、幻想です。むしろ、「人は他者なのだから百パーセント自分のことなんか理解してもらえっこない。それが当然なんだ」と考えることで、悩まず、楽になれます。

『みらいおにぎり』　桧山　タミ／著　文藝春秋

桧山タミさんは、93 歳の今も現役料理研究家です。小さいころからおいしいものを食べることが大好きで、「料理」の仕事を生業としています。そんな桧山さんが、小学校で「授業」をすることに。自分の生い立ちやどうして料理研究家になったのかなど、おしゃべりをしました。授業が終わるころになっても、まだまだ話がつきません。そこでこの『みらいおにぎり』に書くことにしたのです。

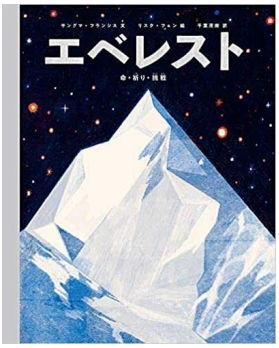
『おもしろい！スポーツの物理』

望月　修／著　講談社

スポーツが上手になるには、とにかく練習することだと思っていませんか？　例えば「相撲」。体重の軽い力士が重い力士を押し返すにはどんな練習をすればよいでしょう？　物理の法則で考えると、「立ちあいの速度を上げること」が大きな力を生むことになり、その練習をすればよいことがわかります。物理の知識が、もっとスポーツを楽しくしてくれますよ。

『エベレスト　命・祈り・挑戦』　サングマ・フランシス／文

リスク・フェン／絵　千葉　茂樹／訳　徳間書店



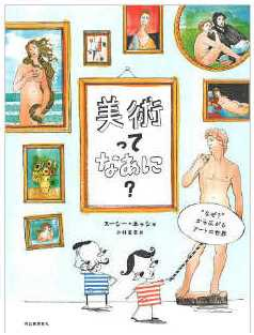
「チョモランマ」「サガルマータ」とも呼ばれるエベレスト。5,000 万年前に誕生したヒマラヤ山脈にある、世界で一番高い山だ。ヒマラヤ山脈には、その土地に適した動植物が生きている。また、エベレストは祈りの山でもある。さまざまな伝説がある。そして、エベレストと言えば登山だ。長年にわたり、人間はエベレストに挑戦し続けてきた。

『化石ハンター』小林　快次／著　PHP 研究所

世界でも活躍する恐竜学者の小林快次さんは、初めから恐竜が好きだったわけではありません。中学生のとき、近場でアンモナイトや三葉虫の化石が出るのを知り、「面白そう」と軽い興味をもったことが恐竜学者への第一歩でした。普通の将来像を思い描き、「他人に流されてきた」という小林さん。恐竜学者になるまでの道のりや、「三日ぼうず」のすすめなど何かに一歩踏み出すヒントが詰まっています。

『美術ってなあに？　“なぜ？”から広がるアートの世界』

スージー・ホッジ／著　小林　美幸／訳　河出書房新社



美術館で「どうして風景を描くの？」と思ったことはありませんか？風景の絵が多く描かれるようになったのは、300 年くらい前に金属の絵の具のチューブが発明されたのがきっかけ。外の好きな場所で絵が描けるようになったから。「どうして、美術館ではしずかにしてなきゃいけないの？」など、さまざまな疑問に答えてくれる。

＊中央図書館　２階　ヤングアダルトコーナーのご案内

２階の開館時間　　午前９時から午後７時まで

お休みの日　　施設保守日

年末年始　本の整理のとき　ほか

問い合わせ　厚木市立中央図書館　〒243-0018　厚木市中町 1-1-3　☎（046）223-0033